

和合

No.89
2012.10.20

題字：三浦修次



主な掲載記事

和合ってどんなところ.....	2
ふるさとを想う.....	2
年中行事（行事食）.....	3
和合の里のお地藏様.....	3
老いないために.....	4
和合の交番.....	4
亀治からのメッセージ.....	5
せんせいあのね！.....	6
私の健康・健康レシピ.....	7
地域インフォメーション.....	8

でっけえ〜!

和合ってどんどこ



東平田小学校 莊司秀明 校長先生

延々と広がる田園風景。夕日を背にした舟つなぎの松。小出沼の水面に映る青い空と白い雲。そして激しい地吹雪。

四季折々の風景や自然の中で脈々と受け継がれた風土や人情が、3年間で感じた和合の素晴らしさである。和合を思う時、知りあったたくさんの方々の顔と、教えられたことが次々と頭に浮かぶ。どの方も熱心に子どもや地域のことを考え、助けていただいた。

数年来続けている新聞記事の収集。教育関係や学習指導用の記事を綴じている。庄内町や四小に関しては、「地域学習資料」の分類で綴じている。最近では、全国高校総体での卒業生の活躍があった。Aさんのお姉さん、優勝できなかったけど、頑張ったな。誇らしさを感じながら綴じた。中学の新人大会でも、卒業生の名前を見つけて誇らしく思った。

異動して1年半たった今でも、たくさん子ども、保護者、地域の方々との関りで得られた絆が私の財産であり、励みでもある。

黄金色に染まった和合の里ももうじき冬の支度に入るだろう。激しい地吹雪は、子ども達への自然からの試練である。先祖代々受け継がれた試練を新しい子ども達もまた、乗り越え、成長していくことを確信している。和合の自然、風土と人々に育まれながら、「頑張れ、次世代を担う和合の子ども達。」

ふるさとを想う

斉藤 均さん (廻館出身 愛知県在住)

ふるさとを離れて既に43年になろうとしている。還暦を祝し、和合中学の39会で集まった3年前、それぞれ、それなりに年輪を刻んだ姿・顔形に時の流れと速さを感じたところである。ふるさとの良さは離れて初めて気づかされる。

お米や野菜・漬物の美味しさは勿論だが、平野から観える四季折々の鳥海山や月山の眺めは、心に深く刻みこまれている。

ところで、廻館の外れにある大樫が現在も大切に保存されており大変嬉しく思っていますが、幼少の頃は大木の幹の枝分かれ部分に、皆んなに負けじとなんとか登り上がろうとチャレンジした事、また、地吹雪の中、冷たさや怖さで泣きながらの下校時には、帰路の目印として大変役にたった事が思い出される。さらに、当時は上級生を大将に近所の子供達全員で、神社での陣地取り遊び、時には上通り全域での隠れんぼ遊びなどが目に浮かび、自然と社会性、協調性が身に付いたと思う。自転車通学の中学時代、冬によく凍った朝には道路ではなく、田んぼを直線的に走り、近道登校することが楽しみであった。

振り返ってみると、私達の年代は、ふるさとでの幼少時の経験や、厳しい自然環境の中で培われた、逆境に対峙し粘り強く物事を成し遂げる力が醸成されたのではないかと感謝している。

最近残念に思うのは休耕田が目につくことである。先人が長い年月努力して作り上げてきた肥沃な耕地を活用し、新なる発展を願ってやまない。

まぼの年中行事

●刈上げ祝(十月)

初めて稲刈りをする日を鎌立てと言って雇い人などに酒が出された。稲刈りの終わった日は刈上げと言い、餅をついたのが刈上げ祝いである。昭和四十年頃まで、稲刈機械が入るまで人の手で刈り取られた。手作業で重労働であったので、昔から仕事の量が決められていた。

十日から二週間も刈取りをすると手の皮が薄くなり、指袋などをして刈取り続けなければならぬ。刈上げの日は若衆が一時間位早く仕事をやめて餅つきをするが、手の皮が薄くなってるので苦労した。しかし、長い労働からの開放感と食欲の秋ということで、この餅の味は何とも言えないものであった。

●背負の揚(十月)

以前は、人の背中に背負って稲上げをし、鮭を肴に稲上げを祝った。一年手を尽くした稲が家に届き終わったことでもあり、機械化になってからはやらなくなった。

昔農道が狭く稲を背負った大変な仕事で、家に来てからも稲の積み替えをし、外に二才(稲の山)を積み上げる。収穫をばんどり(背負いはしご)で運んだ頃に、家族みんなで無事を神仏に祈った。

余目町の民俗年中行事より抜粋

～あん～

砂糖1.5カップ、酒0.5カップ
しょうゆ0.5カップ、水3カップ
片栗粉0.5カップ

★ごま豆腐

《材料》ごま1カップ、クズ粉1カップ、水5カップ

【作り方】

- ① ミキサーにごまを入れ、水1カップを加えてよく砕く。
- ② ①をこし袋に入れ、残りの水を徐々に加えながらこす。
- ③ ②にクズ粉を加え、ダマがないようによく溶いてから火にかける。
- ④ 鍋底からよくかき混ぜながら火を通し、さらに

20～30分練る。

- ⑤ 水でぬらした流し型に④を一気に流し入れ冷やし固める。
- ⑥ あんを作る。鍋に砂糖、酒、しょうゆ、水を入れて煮立て、水溶きした片栗粉を加えてかき混ぜ、照りが出るまで練る。火を止めて、冷めるまで時々かき混ぜる。

～大和の行事食より～



イラスト：工藤昭子

和合の里のお地藏様

福島編

〈語り手〉富樫 重勝さん

福島部落の地藏講の始まりは、明治四十一年八月。年二回、春と秋に行われている。

部落にお嫁さんが来るとお参りし、子宝に恵まれるようにと安産祈願をしていた。子どもたちを守り部落を守るとされる地藏様、脇に供えてある作り花は、いつの頃から正月に買い換えて今までのものを反対側に置き、交互に供えるようになったものである。

お地藏様の表情にもそれぞれ特徴があるのだが、目鼻立ちのはっきりとしているが優しい顔つきで、子どもたちを見守り続けている。

御堂の脇には赤く色づき、吹雪の冬には地藏様とともに見守り続けている椿の木。部落で相談し、来年は御堂の立て直しを考えている。部落全体で地藏様を守りたい。

〈聞き手〉富樫

老いないために!!

介護予防② 歯と口を健康にして全身健康に!

◎お口の健康と全身の健康

健康で長生きするためには、歯や口腔の健康管理が欠かせません。口の中の細菌は、むし歯や歯周病のほか、肺炎など思わぬ病気までも引き起こします。

また、老化によって物をかんだり、飲み込んだりする力が衰えると、栄養不足による体力の低下や肺炎・認知症などの病気になりやすく、寝たきりの一因になることもあります。



◎お口の健康のポイント

- ①食後は必ず歯をみがきましょう（自分に合った硬さ・大きさの歯ブラシを選ぶ）。
- ②義歯（入れ歯）は、毎日しっかり洗浄しましょう。
- ③歯ブラシが使えなくても口内の洗浄をしましょう（ガーゼで拭き取る等）。
- ④糸ようじ・歯間ブラシ・洗口剤 等を活用しましょう。
- ⑤口の機能維持のため、日頃から舌・口・顔面の体操を心がけましょう。



高齢者総合相談窓口（介護相談・心配事などお気軽にご相談ください）

庄内町地域包括支援センター
（介護センターほほえみ内）
TEL 45-1030

庄内町地域包括 立川サブセンター
（庄内町役場立川庁舎内）
TEL 51-2505

和合の交番



きのこ採りシーズン到来!

おらが山でも油断大敵

○平成23年中のきのこ採りに伴う遭難事故の発生状況
発生8件（8名）、死者1名



きのこ採りに伴う遭難事故を防ぐため以下のことを守りましょう。

- 一人では入山せず、行き先、帰宅時間を家族に告げ、早立ち早帰りをしましょう。
- 熊鈴・ラジオ・食料・雨衣・携帯電話・その他必要な装備、資器材を忘れずに携帯しましょう。
- 体調の悪い時は山に入らないようにしましょう。健康状態と気象条件をチェックし、不安があれば勇気を持って下山しましょう。
- 道に迷ったらむやみに動き回らず、見晴らしの良い場所で助けを待ちましょう。
- 携帯電話を持っていれば、電話が通じるところで助けを呼びましょう。
- 登山計画は提出しましたか。登山計画はあなたの命綱です。



亀治からのメッセージ

亀ノ尾の里資料館

●《秋の展示》「稲刈り・ひけし作業」開催中

企画展「北楯大堰の歴史」には、たくさんの皆さんにご来館いただきありがとうございました。夏休み期間ということで、子どもたちや町外・県外の方からも見ていただくことができました。おいしいお米の里庄内町を支える「堰」について、理解していただけただけではないかと思います。



さて、現在亀ノ尾の里資料館では、常設展《秋の展示》「稲刈り・ひけし作業」を公開しています。秋の農作業である稲刈りから俵詰めまでの作業に使われた道具をフロアいっぱいに展示しています。昔なつかしい作業風景をぜひご覧ください。

●バケツ日記

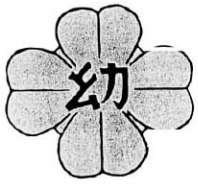
稲刈りをしました。今年は暑かったせいか、資料館のバケツは不良(ToT)。白く実らなかった穂や葉が枯れるなどの高温障害が……。3年目にして初めての体験。これまではあまりに順調で、「植えれば育つ!!」という気持ちでいましたが、今年のバケツ栽培で、農家の皆さんがおいしいお米を作るために様々なご苦労をされているんだなあ実感しました。農家の皆さん、いつもおいしいお米をありがとうございます。



亀治の目

庄内平野に秋が来た。コンバインが次々と稲を刈り取り、田んぼはあっという間に丸裸となる。昔は、一株一株手刈りをして束ね、杭に掛けられた。稲束を杭に掛けて干すのは庄内流。同じ米どころ新潟では洗濯物を干すように稲束は竿に掛けられる。昨年、新潟に出かけた時、あつみを過ぎるとすぐに稲束の壁があちらこちらに作られていることに驚いた。「架干し」は、風の強い庄内には向いていないのだろう。

乾いた稲は家族総出で稲倉に運ばれ、脱穀調整作業が繰り返される。農家の秋は忙しい。いまは、「稲揚げ」も「ひけし」もほとんど無くなり農作業は軽減されたが、機械化された今も、「晴れ」を願い豊作を祈る思いは変わらない。



よつぱっこ通信 第四幼稚園

せんせい、あめね!

～幼児共育・親子ふれあい講座 笑顔がいっぱい!～

9/12 (水) ラフターヨガ・ティーチャー 山口考子(やまぐち なすこ)先生の大きな笑いから始まった親子ふれあい講座。笑いのヨガを親子で体験。

初めはびっくりしていた子ども達も、山口先生のパワーに引き込まれ、次第に大きな声が出るようになってきた。「アッはッはッは」初めは表情の硬かった大人たちも、少しずつ声も出始め、自然に笑みがこぼれ、とってもいい表情になっていた。日頃、笑っているようでなかなか笑っていないことに気づく。声を出して笑うって久しぶり、という声もあった。

笑いはストレスの発散にもなり、体の免疫も高まる。何ととってもいい気分になれる。「初めは嘘笑いでもいい…」と言われた時は「えっ?」と思ったけれど、声を出して笑うことがとっても楽しいことに気づく。子ども達を家族を「大好きだよー、あっはッはッ」と言って抱きしめてみよう。親子みんなが元気になれた一日だった。

『笑う門には福来る』 大きな声を出して、笑おう。笑顔で笑おう毎日が、笑顔が花咲く日でありたい。子ども達と一緒に、さあ、きょうも笑おう「あっはッは」

～北月山荘でお風呂に入ってきたよ!～

9/18 (火) 洗面器とタオルを持って、温泉に入ってきた。ボランティアのお父さんお母さんも一緒に行ってきた。お家では、お父さんお母さんと一緒にお風呂に入り、身体も頭も全部洗ってもらっている子も、北月山荘では、一人で身体をごしごし洗った。風呂場はワイワイ、キャーキャーとってもにぎやか。裸のつきあいはとっても楽しい。

「どこから洗う?」「手から…」「足から…」タオルに石鹸をつけてもらい、自分でゴシゴシ洗った。「こうやって洗うといいんだよ」と一生懸命洗って見せる。ジャバーンと周りにお湯がかからないよう気をつけながら身体にお湯をかけて泡を流す。湯船は大きくてちょっと深くって、ドキドキしながら入った。「気持ちいい!!」風呂上りに大サービスのソフトクリームをいただき「あーおいしい!!」「温泉って気持ちいいねー!!」バスの中では、立谷沢の山を近くに感じながら、くねくねの道を「ジェットコースターみたい!」と大喜びしながらでかけてきた。「今度は、お母さんも連れて来ようっと!」



～収穫、実りの秋～

第四小学校



暑く厳しい夏を乗り越えたが、順調に育っていた亀ノ尾。昨年より一か月ほど早く稲刈りをした。毎年5年生の児童が自分たちで田植えをし、溝きり作業や観察、そして自分たちの手で刈り取っている。

学校田の指導をしている阿部伸也さん(沢新田)から刈り取りの手順などを聞きながら、一人ひとりが嬉しそうに、どこか満足そうに作業していた。

11月の後半には「収穫感謝祭」が予定されている。

私の健康



横山廣喜さん (赤淵新田)

先日、地域情報誌「和合」より、私の健康について何か一言と原稿依頼があった。普段あまり意識はしていないまでも、なんとなく話題として話す程度で自分の健康のことなど深く考えたことなどなかった。何をどう書けば良いのか迷いました。年を重ねる程に体調も変わってくるので自分なりに無意識のうちにもこんなところは注意をしなければとか、家族や周囲の方に迷惑をかけたくないということで自分の健康管理は自分でしっかり行っていきたいものである。

体も心も健康でないと、人生楽しくありません。健康については個々いろいろな方法が言われますが、一つは食の健康についてです。人の元気の元は一日の食事にあると思います。その日一日だけでなく毎日の食生活が健康な身体を保っていると思います。

春先から秋にかけて私にとって畑仕事が体力作りの場でもある。野菜を作って野菜中心の食事を心がけています。最近新聞、テレビ等で健康食品等の宣伝がずい分見えますが、自然の食品で偏食をしないでバランスの摂れた食事に注意し、体の健康を保ちたいと思うところである。

二つ目の健康は心の健康です。仲間とともに情報交換をし、人の話を聞いたり、出来るだけ多くの人と交流を持ち、積極的に参加をし広く知識を持つことで人生観が広げることで心豊かな人生を送りたいものである。

人生一生勉強だというのが、体も心も健康でないと仲間に対しても良い対応ができないものである。食の健康、心の健康両方に注意をして老後を送りたいものである。原稿を書くことで今まで深く考えなかった事が自分なりに反省もし、現在健康であることを有り難いと思うこの頃である。

健康レシピ

～手軽に簡単～じゃがひじき



◎材料 (4人分)

フライドポテト	150g
乾燥ひじき	10g
豚ひき肉	30g
にんじん	50g
うすあげ	2枚
～調味料～	
しょうゆ	大さじ3
みりん	大さじ1

◎作り方

- ① フライドポテトを180℃の油でカラリと揚げる。
- ② 乾燥ひじきは水でもどす。
- ③ にんじん、うすあげはせん切りにする。
- ④ 豚ひき肉を炒めて、にんじん、うすあげ、もどしたひじきを入れ、調味料を入れ煮る。
- ⑤ ④とフライドポテトを混ぜ合わせる。

栄養もあり、おやつ感覚で
たべれますよ♪



地域インフォメーション!!

各賞がきまりました☆

このほど、四小全児童へ「地域啓発標語」の募集を行った。標語のテーマとして1、2年生は「交通事故のない地域(町)づくりのための標語」、3、4年生は「明るく元気な地域(町)づくりのための標語」、5、6年生からは「自然環境を守り、未来へ引き継ぐ事のできる地域(町)づくりのための標語」とした。合計総数185点の応募があり、うち最優秀賞、優秀賞(5名)、佳作(3名)が決定した。

11/4(日)の和合まつり「演芸フェスティバル」の中で表彰する。

5年生の齋藤真椰さん(西袋)が最優秀賞に輝きました☆☆



あ～るけ、歩け♪

和合の里ふれあい交流の場として、スクールコンサートが四小体育館を会場に行われた。

ステージ中央に白のランニングとズボン姿の須貝智郎が登場、楽しい語りと素晴らしい歌声に会場は大盛り上がり。NHKみんなの歌で流れていた「ごっつおさま♪」の曲には元気な子どもたちもさらにパワーアップ!!「♪たいせつに命 いただきます 申し訳ねえ いただきます……だからひとこと 言ってくれ食いおわたら言ってくれ……「ごっつおさま!」」笑顔と歌声が体育館いっぱい広がった。命の大切さ、生きていることの素晴らしさを改めて感じる事が出来た。

この日は幼稚園、小学校、地域がひとつになり和合の里が元気になった一日だった。



たくさんの人とふれあう機会がある。今まで知らなかった人もちよっとしたきっかけで近づき、繋がっていく。暑かった和合の夏は、大人も子どもも一緒にたたくたたくさんの笑顔の花が咲いていた。ある秋の空、きれいな虹を見た。はつきりとした色でくっきりとしたアーチを描いていた。子どもの頃近くで見たくて、触ってみたい、歩いてみたい!とさえも思っていた。

今年はどうな冬になるのだろうか。風にそよぐ緑の稲から黄金色のじゅうたん、刈取りを終えた田んぼは一面真っ白な世界へと移り変わっていく。

編集後記

みんなであての～! 和合の里が元気になります!

■作品展示(園児・児童・一般)

10月31日(水)～11月4日(日)

※最終日は演芸フェスティバル終了まで

■菊花展

10月31日(水)～11月2日(金)

■生け花展示

11月3日(土)～11月5日(月)

※演芸フェスティバルは11月4日(日)11:30より